



キタ！からきた

だより 第171号

※支部活動に関するご質問・ご要望や、事例検討会、一泊研修他、申し込みについては、以下のメールアドレスにご連絡下さい。

kitasibu2012@yahoo.co.jp 大阪北支部宛



「こんなところに社会福祉士がいた！」

<大阪北支部・会員リレー紹介 038> レポーター（三好通裕）

カムバック投稿
紙配信されていなかった
記事を再投稿します！
令和5年1月号より

今回ご紹介するのは医療法人の居宅介護支援事業所で主任ケアマネジャーをされている福島みどりさんです。元々は地方公務員として保育士をされていた福島さん。家族の介護のため退職されたそうですが、その時に周囲の介護者に色々助けられたお話しを聞くことができました。

その後、社会福祉協議会のデイサービスセンターの職員を経て地域包括支援センターにて要支援高齢者のプランニングのお仕事をされていたそうです。その時に一緒に仕事をしていた社会福祉士の姿から学ぶことが多く、資格取得もその時に働きながら勉強されたそうです。主任ケアマネジャーとして活躍している今でも認知症に関する理解や介護保険の枠にとらわれない支援、権利擁護の視点など、その人が在宅で困っている真のニーズを把握し、長く関われる支援を意識しているそうです。その中で自ら命を閉じてしまった方やターミナル期の人にあたって、何もできない無力観を感じ何もできないと思うこともあるそうです。そういう時こそ在宅の医師や訪問看護、保健師とコラボして「その人らしい最期」を一緒に考えながら支援しているそうです。コロナ禍で非日常な息抜きが難しい現状ですが美味しいものを食べたり、韓流ドラマなどリラックスする時間も意識しているそうです。

保育士からスタートした福島さん。高齢者支援の経験も活かし、子どもからお年寄りまで気軽に立ち寄れる場所で、今まで助けられた人たちのためにも恩返しをしたいという夢を語ってくれました。私も居場所づくりを目標に考えているので、機会があれば一緒にそういう場所を作りたいと思っているので、今後も色々なことを教えてもらえそうです。



(8/24) 大阪北支部研修会 『きくをまなぼう』の報告

「きくをまなぼう」の研修会を企画・参加させて頂きました。私は講師の高落先生のグループ学習会に参加しており、「聴くことのあり方」を皆さまとも共有できたらと思い、この度企画しました。学習会では冒頭に「これから一緒に旅に出ましょう」と言うフレーズから始まります。旅のプロセスで何が起るのか、旅から帰った後自分がどう変容しているのか、期待と不安が入り混じりながら学習会に参加しています。今回は初めて集団での研修会に参加し、どんな旅が始まるのか、どんな変化が起こるのかとても楽しみでした。研修会の中では、先生が一つ一つの言葉をとても丁寧に扱われていて、先生の思いがとても伝わってきました。自分の心や体の感覚の変化に、言葉がもたらす力を感じました。先生が「今、自分のいるところ」を大事にされており、自分の心や体が今どんな状態で何を感じているのか、つまり自分を知らず「自己覚知」の大切さ、その上で話を聴くときの自分の姿勢のありようを学べたと思います。相手のことを「分かる」ことの難しさ、相手は自分とは違う人間、「分かる」とは「分ける」ということ。だからこそ相手のことは相手に聴き、その人の気持ちや価値観を大事にし、尊重することで、相手は聴いてもらえたと思え、共感が生まれる。そんなプロセスを大事にしながら、相手の話を聴かせてもらえる自分になれるように、日々の実践の中で研鑽していきたいと思っています。



(大阪北支部 松下麻美)

★大阪北支部公式LINEアカウントのお知らせ（※他支部の方の登録也大歓迎です！！）

情報が早い！情報が手元に届く支部公式LINE。目標としていた200名の登録を突破しました！

LINE「友だち追加」から、ID検索「@712abvel」するかQRコードをスキャンしてください。

